

2018年度 災害対応マネジメントセンター活動報告

報告期間：2018年4月～2019年3月

1. 国や宮城県等の行政組織、自衛隊等の外部組織による訓練・研修会への参画

1) 訓練・研修会

(1) 「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練 訓練プレイヤー：3名

開催日時：6月12日(火)

訓練会場：行政庁舎2階講堂(災害医療本部)、行政庁舎5階 防災センター

実施主体：宮城県

訓練参加機関：

保健福祉部(医療政策課、保健福祉総務課等)、消防、警察、自衛隊、緊急消防援助隊等

- ・プレイヤー：仙台医療センター、東北大学病院、石巻赤十字病院、日本赤十字社宮城県支部
- ・コントローラー：大崎市民病院、石巻赤十字病院、登米市民病院

訓練参加人数：訓練全体：3000名、県庁講堂内 150名

医療機関：プレイヤー：6名、コントローラー：8名、県職員：9名

訓練内容：午前9時に県内最大震度7の地震が発生し、県庁講堂に災害対策本部が設置、災害対策本部内に災害医療本部が設置された。午前中は発災直後の初動対応、午後は発災48時間後を想定した災害医療本部での対応訓練を実施。

成果：プレイヤーとして参加。医療調整本部内の情報共有、保健福祉関連機関との協力体制、医療調整本部と航空運用調整班、ドクターヘリ調整本部との連絡調整を図ることができた。



(2) 大規模地震時医療活動訓練 訓練プレイヤー：4名

開催日時：8月4日(土)

訓練会場：

- ・被災想定地：徳島県、香川県、高知県、大分県、宮崎県
- ・被災地外：北海道、岩手県、熊本県

実施主体：内閣府防災地方・訓練担当

訓練参加機関：

内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省(DMAT事務局含む)、国土交通省、海上保安庁、防衛省、国立研究開発法人宇宙航空研究

開発機構、西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社、北海道、岩手県、徳島県、香川県、高知県、熊本県、大分県、宮崎県、関西広域連合、公益社団法人全日本トラック協会等

訓練参加人数：被災地内：139病院(参加者多数)

被災地外：プレイヤー345病院、373チーム、1838名

コントローラー378名

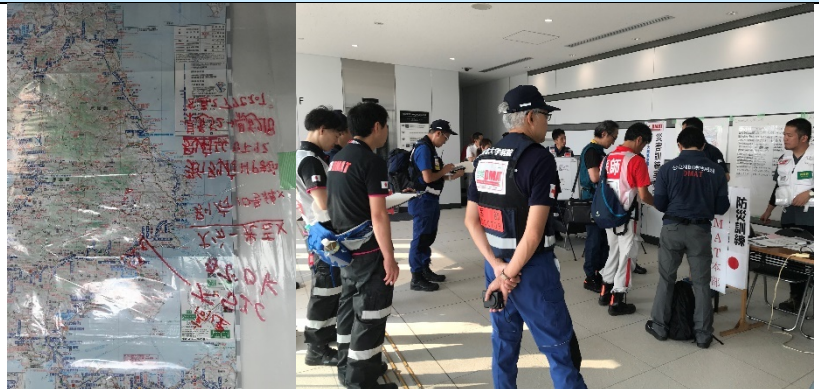
宮城県：54名

平成30年度総合防災訓練大綱(中央防災会議決定)：

南海トラフ地震を想定し、四国・九州ブロックにおいて災害派遣医療チーム(DMAT)の参集、活動、広域医療搬送等の図上・実動訓練を実施する。

当院活動内容：参集拠点である福岡空港に到着後、2チームに分かれ、A病院とB病院に派遣された。A病院には活動拠点本部があり、本部活動を支援し、本部長のサポートや本部の通信やクロノロジーの記載を実施した。B病院では病院支援に入り、本部の支援活動を行った。

成果：今回は2チームとも本部活動を経験し、本部活動支援のあり方や、本部支援に必要な通信ツールや記録に関する物品等、現場でストレスなく対応するための準備物品について理解が深まった。



(3) 宮城県 9. 1 総合防災訓練

企画運営担当・当日コントローラー：3名

開催日：9月1日（土）

訓練会場：七ヶ浜サッカースタジアム

実施主体：宮城県、七ヶ浜市

訓練参加機関：

指定地方行政機関、自衛隊関係、警察関係、宮城県関係、七ヶ浜町関係、消防関係、指定公共機関、指定地方公共機関、防災協定締結等機関、医療機関（東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台医療センター、坂総合病院、仙台赤十字病院、石巻赤十字病院、日本赤十字社宮城県支部

訓練参加人数：訓練全体 2800名

医療機関プレイヤー：31名、コントローラー：3名

消防関係者 36名、傷病者 58名

訓練内容：宮城県沖を震源とする M9.0 の地震が発生し、大津波警報が発表、避難指示を発令。20分後に津波が到達し、孤立住民や流された住民の救助、負傷者の治療を行う

成果：救護所内でのトリアージタッグの運用、医療者と消防職員の情伝達方法や情報集約方法、人員配置等、検討課題が明らかとなった。



(4) 東北ブロック DMAT 参集訓練

企画運営担当・当日コントローラー：3名

開催日時：10月6日（土）～7日（日）

訓練会場：秋田県の災害拠点病院、空港等

実施主体：秋田県

訓練参加機関：

東北6県のDMAT医療機関、行政、消防、警察、自衛隊

・県内プレイヤー：東北医科薬科大学病院、みやぎ県南中核病院、石巻赤十字病院、仙台医療センター、大崎市民病院、東北労災病院、東北大学病院

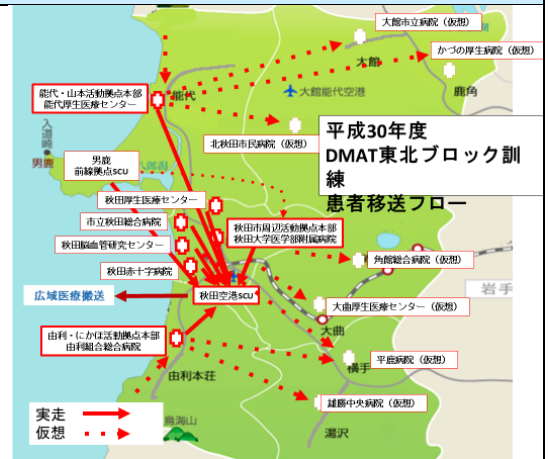
・県内コントローラー：みやぎ県南中核病院、東北大学病院

訓練参加人数：訓練全体 370名

宮城県プレイヤー：48名、コントローラー：3名

訓練内容：秋田県沖を震源とする M8.7 の地震が発生。沿岸部に最大 14m の津波が襲来し甚大な被害が出た。県庁災害対策本部、3つの活動拠点本部、秋田空港 SCU が立ち上がり、傷病者の後方搬送を行う

成果：秋田県内の受け入れ医療機関数や受け入れ患者数のキャパシティが少なく、後方搬送をスムーズに行うには、搬送手段の確保が課題となることが明らかとなった。



(5) みちのく ALERT2018 松島基地 SCU 設置運営訓練

企画運営担当・当日コントローラー：3名

開催日時：11月10日（土）

訓練会場：航空自衛隊松島基地

実施主体：自衛隊

訓練参加機関：

自衛隊（陸上自衛隊第6師団）、宮城県医療政策課、消防、リーベン

・プレイヤー：東北労災病院、仙台医療センター、公立刈田総合病院、みやぎ県南中核病院、東北医科薬科大学病院、仙台オープン病院、東北大学病院、大崎市民病院、仙台オープン病院、登米市立病院、仙台赤十字病院

・コントローラー：東北大学病院、みやぎ県南中核病院、仙台市立病院、大崎市民病院

訓練参加人数：訓練全体：13000名、

SCU訓練：自衛隊 15名、医療機関：プレイヤー：46名、コントローラー：9名

訓練内容：震災後にかさ上げした航空自衛隊松島基地を初めて使用し、SCU訓練を実施。

成果：本部内の統括とロジ部門、本部と診療部門のレイアウトが離れており、本部内、診療部門内、本部-診療部門間での情報共有が十分になされず、患者搬出に遅延が生じた。レイアウトや情報共有方法の課題が明らかになった。



(6) 宮城県国民保護共同実動訓練 ※悪天候により中止

企画運営担当：3名

開催日時：1月29日(月)

訓練会場：ひとめぼれスタジアム宮城
弘進ゴムアスリートパーク仙台ほか

実施主体：宮城県

訓練参加機関：

政府機関：内閣官房、消防庁、海上保安庁、防衛省・自衛隊、
地方公共団体、指定地方公共機関等

- ・プレイヤー：仙台医療センター、東北労災病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院、仙台オープン病院、登米市民病院、公立刈田総合病院、石巻赤十字病院
- ・コントローラー：仙台医療センター、東北大学病院、大崎市民病院、宮城県南中核病院

訓練参加人数：訓練全体700名、医療機関：プレイヤー50名、コントローラー13名

訓練内容：ひとめぼれスタジアムでサッカーの試合中に爆発テロが発生、観衆を避難させ負傷者対応を実施し、後方搬送する

企画運営担当内容：宮城県国民保護訓練の企画運営アドバイザーとして医療部門の他機関との調整・体制整備を行った

成果：悪天候のため実動訓練にてこれまで構築した体制を検証することはできなかったが、各機関とディスカッションを重ね、発災後の初動体制を構築できた。次年度の机上シミュレーションで検証し、2020年の東京オリンピック開催に向け、実動に耐えられるものにブラッシュアップする予定。



(7) 仙台空港航空機事故対処訓練

企画運営担当：2名、プレイヤー：1名

開催日時：2月27日(水)

訓練会場：仙台国際空港ターミナルビル、有料待合室ABC

実施主体：仙台空港緊急計画連絡協議会事務局

訓練参加機関：

仙台国際空港、宮城県、消防本部(名取市、岩沼市、仙台市)、
医師会(名取、岩沼、亘理、仙台)

- ・プレイヤー：大崎市民病院、仙台医療センター、東北大学病院、
仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、
みやぎ県南中核病院、東北労災病院
- ・コントローラー：宮城県医療政策課、大崎市民病院、東北大学病院、
みやぎ県南中核病院、東北労災病院

訓練参加人数：訓練全体86名、医療機関：プレイヤー24名、コントローラー6名

訓練内容：仙台空港航空機が着陸に失敗し多数の傷病者が発生し、機内から救助された乗客は救護所にて処置を実施、後方医療機関に搬送された。

成果：マニュアルに沿って実施し、医療従事者の現場への配置場所(投入順序)や、配置する医療者の背景(DMAT、医師会等)、マニュアル自体の課題も見つかり、マニュアルの検証、更新につながった。



2) 宮城県からの委託事業

(1) 宮城県災害医療技能研修【仙台市医師会館】

企画運営担当：3名

開催日時：12月6日(木)7日(金)

開催会場：仙台市医師会館

実施主体：東北大学病院(宮城県委託事業)

参加機関：

石巻赤十字病院、大崎市民病院、公立刈田総合病院、仙台医療センター、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院、東北大学病院、東北労災病院、登米市民病院、塩竈消防、大崎医師会看護学校

参加人数：受講生：40名、講師・タスク：39名
(他県日本DMATインストラクター多数)

内容：日本DMAT隊員養成研修会の局地災害に当たる1.5日分の研修を厚労省が定める要項に沿って、実施した。



成果：局地災害に特化した内容をプログラムに沿って実施、修了できた。宮城県内のロジ会を立上げ、第1回のMTGを実施することができた。

(2) 宮城県医療救護活動従事者研修会 企画運営担当：3名

開催日時：1月14日（月）

開催会場：宮城県医師会館

実施主体：東北大学病院（宮城県委託事業）

参加機関：県内各医療圏における保健支部、行政、医療機関

参加人数：受講生36名、講師・タスク19名

内容：避難所運営や避難所のアセスメント方法、東北大学病院として開発しているRASSEC-GMの使用方法を学ぶ

成果：県内36名の受講者が修了し、災害発生後における行政の対応や避難所アセスメントを理解できた



3) 会議

(1) 宮城 DMAT 実務調整 WG 会議出席

開催日時：4月25日（水）、7月19日（水）

開催場所：宮城県庁

実施主体：災害拠点病院連絡協議会、宮城 DMAT 連絡協議会合同会議

参加機関：宮城県、7医療機関

参加人数：11名

活動内容：各種訓練、宮城 DMAT の民間保険加入、運営要綱、宮城県災害医療コーディネーターの追加委嘱、DMAT 東北ブロック連絡協議会ロジスティクス部会宮城県委員、災害時における EMIS による情報共有について検討

成果：宮城県における災害対応や DMAT 活動について具体的な活動計画を進捗させることができた

(2) 東北ブロック DMAT 連絡協議会 会議出席

開催日時：5月13日（日）、1月12日（土）

開催場所：岩手医科大学、仙台市医師会館

実施主体：東北ブロック DMAT 連絡協議会

参加機関：各都道府県自治体職員、各都道府県日本 DMAT インストラクター

参加人数：25名程度

検討内容：日本 DMAT 検討委員会報告、平成30年度東北ブロック参集訓練、平成30年度都道府県 DMAT 隊員養成研修について検討

成果：今年度の各種会議の最新情報を入手し、次年度の東北ブロックの年間計画立案を行った。

(3) 東北ブロックロジ部会連絡調整会議 会議出席

開催日時：5月12日（土）

開催場所：岩手医科大学 矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センター

開催主体：DMAT 東北ブロック連絡協議会

参加機関：東北ブロック DMAT 医療機関所属各 DMAT 隊員、日本 DMAT インストラクター

参加人数：20名程度

検討内容：過年度、東北ブロック DMAT 協議会のロジ部会において、各県の代表者を決定していたが、人事異動等を考慮し、各県で更新する

成果：初動期における各県のロジスティック担当者の現状に応じた人選の再考と、県内のロジスティック活動を進める一助となった。

2. 院内活動

1) 院内訓練・研修会

(1) 東北大学病院総合防災訓練 企画運営担当：3名、プレイヤー：1名

開催日時：10月13日（土）

訓練会場：東4階第5会議室、がんセンターボード室、外来C棟1階、
先進医療棟1階、地下1階

実施主体：災害対策委員会

参加者：医師、歯科医師、看護師、医療専門職、事務職、警備員、運転監視員、
医療事務委託業者、エレベーター管理業務委託業者、医学部学生

参加人数：400名以上

共同訓練機関：東北労災病院（同日同時間に災害訓練実施）

外部評価者：大崎市民病院より医師1名、看護師1名

主な訓練内容：1) 災害対策本部立ち上げ訓練
2) 外来における初動対応訓練
3) 多数傷病者受け入れ訓練

訓練想定：平日午前、仙台市内直下・長町一利府断層を震源とする震度6強の
地震発生を想定。

◇停電→非常電源へ切り替え、エレベーターは発災直後停止している。

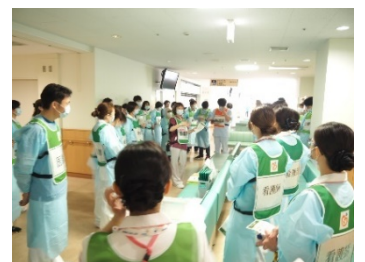
◇内線、PHSのみ使用可能（外線、携帯電話輻輳）、
東北大学病院情報システムは使用可能とする。

◇院内の被害状況は入院患者等の人的被害無し、火災発生無し。
建物・設備に軽微な被害有り

訓練までの準備：

- ・災害対策本部事前勉強会：9/21（金）11:00～14:00
- ・外来支部事前勉強会：9/21（金）17:00～18:30
- ・多数傷病者対応部門勉強会：9/25（火）15:00～17:00
- ・外来部門事前勉強会（机上シミュレーション）：10/1（月）17:30～19:00
- ・情報担当向け事前勉強会：10/1（月）14:00～15:00
- ・第1回総合防災訓練説明会：10/11（木）17:30～18:00
- ・第1回多数傷病者対応訓練勉強会（机上シミュレーション）：10/11（木）18:00～19:00
- ・第2回総合防災訓練説明会 10/12（金）17:30～18:00
- ・第2回多数傷病者対応訓練勉強会、机上シミュレーション：10/12（金）18:00～19:00

成果：先進医療等における初の訓練実施による課題や、2回目となる外来棟における初動対応の課題が明らかとなり、実災害に向けた具体的な検討の必要性が関係部署間で共有、周知された。



(2) 原子力災害医療対応訓練 企画運営担当：3名、プレイヤー：1名

開催日時：1月24日（木）

訓練会場：宮城県内（女川原発、石巻日赤病院、石巻・女川地域、
東北大学病院、仙台医療センター）

実施主体：宮城県生活部原子力安全対策課

訓練参加機関：

行政機関：宮城県、青森県、福島県

医療機関等：

【原子力災害医療・総合支援センター、高度被ばく医療支援センター】
弘前大学、福島県立医科大学

【原子力災害拠点病院】東北大学病院、仙台医療センター、石巻赤十字病院

搬送機関等：石巻地区広域行政事務組合消防本部、仙台市消防局

事業者：東北電力、女川原子力発電所

院内参加部署・参加者：病院長、副病院長、放射線科、放射線部、救急科、救命救急センター、事務部門

参加人数：訓練全体21500名、参加機関：120機関

院内参加スタッフ：43人

主な訓練内容：(1) 原子力災害医療関係機関の連携（県・医療機関等・搬送機関・事業者）

(2) 原子力災害医療派遣チームの派遣（派遣要請、派遣調整、派遣先における活動）



(3) 搬送機関による汚染・被ばく傷病者の搬送

(4) 原子力災害拠点病院における汚染・被ばく傷病者の受入れ、医療処置、原状復帰

訓練想定：平成31年1月24日(木)午前7時00分頃、大きな地震が発生し、女川原子力発電所は原子炉が自動停止する。地震後の現場パトロールを実施中の発電所員4名が、余震の発生により現場資機材の崩落を受け汚染と被ばくを伴い被災。

訓練までの調整過程：

院外調整 (1) 宮城県原子力訓練全体会議：8/22、9/13

(2) 事前調整会議 (1/15 弘前大学病院、1/16 仙台医療センター・石巻赤十字病院)

院内調整

・実務調整WG：11/15、12/12、12/26

放射線部と協力し、原子力災害医療対応訓練に必要な体制構築を検討

・原子力災害医療対応訓練事前勉強会：

第1回勉強会 1/7(月) 17:30~18:30

第2回勉強会 1/18(火) 15:00~16:00

第3回勉強会 1/18(火) 17:30~18:30

・事前訓練:1/16(水) 17:30~19:00

成果：先進医療棟開院後、初の原子力災害医療活動訓練となった。原子力災害発生時に派遣される高度被ばく医療支援センター部門を持つ弘前大学原子力災害医療派遣チームとの初の診療現場での共同訓練を実施し、多くの助言を得た。また、女川原発、東北電力との2回目の共同訓練となり、原子力災害対応への理解がより深まった。今年度初となった当院から石巻赤十字病院への医療派遣においても、要請から出勤、現地での活動、帰院後に至るまでの一連の対応に課題を得た。

(3) BCP 講演会 企画運営担当：2名

開催日時：1月24日(木) 17:30~19:00

開催会場：臨床小講堂

実施主体：BCP委員会

講演者：徳島大学環境防災研究センター
助教 湯浅 恭史

聴講人数：43名

講演内容：「実効性のある病院のBCPとは」

成果：BCP(事業継続計画)の概念や、災害拠点病院の役割、BCPの策定、BCM(事業継続マネジメント)のあり方等を近年の西日本豪雨災害の医療機関の実例を提示しながら説明いただき、訓練方法についても質疑応答にて対応いただき、BCPに関する理解が深まる内容となった。



2) 各種委員会活動

(1) 災害対策委員会 企画運営担当：4名

開催日：5/11、7/9、9/4、12/11

議題等：災害対策マニュアル・外来部門マニュアル・災害対策本部マニュアル改定、東北大学病院災害対策内規の改正、災害対策委員会外来防災部会内規の改正、東北大学病院消防計画の改正、帰宅困難者等の非常食の備蓄、総合防災訓練、時材料部ネットワークの協力体制構築、災害備蓄薬品、災害時情報収集システムの運用について検討がなされた。

※災害対策委員会には、下記WG・部会が紐づいており、災害対応マネジメントセンターは各WG・部会と連携して活動を行っている。

マニュアル改訂WG 企画運営担当：4名

開催日：毎月1回定例開催

議題等：前年度からの変更点をマニュアルに反映。具体的には、原子力災害拠点病院の指定や、激甚局地災害に対応するための災害レベル別対応表・災害対策本部フロー図、災害対策本部構成員の指定方法、一方通行の基本ルール、各診療エリア担当職員、診療エリア・動線等の変更、マニュアル・アクションカードの整備について災害対策マニュアルの改訂を実施。訓練後は、抽出された課題に対し、解決策を検討し、マニュアル、ACへの反映の作業を進めている。

<p>先進医療棟 WG 企画運営担当：4名</p> <p>開催日：前年度から引き続き、4/18、6/29 に実施</p> <p>議題等：先進医療棟開院に伴う、多数傷病者対応エリア・動線について検討。また、先進医療等における災害時の昇降専用階段の設定や防災設備の配置場所のフロア図、消火設備の説明会等を実施。総合防災訓練で多数傷病者対応エリアや動線について課題抽出後、企画係、マニュアル改定WGに課題検討を委譲し、WG 自体はクローズ。</p>
<p>総合防災訓練 WG 企画運営担当：4名、プレイヤー：1名</p> <p>開催日：6/15 キックオフ。以後、毎月1回開催（マニュアル改定WGと表裏一体）</p> <p>議題等：訓練テーマを①本部活動②先進医療棟開院に伴う各エリア運用・動線③外来棟における初動対応（新設部門・各診療科含む）の検証を目的として、各部門との横断的な調整や訓練の企画運営を行った。①では、本部内の運用、通信ツールの配置検討を実施、②では救命救急センターや中央診療部門、事務部門と、傷病者やトリアージタッグ・伝票類の流れについて検討、③については外来防災部会と連携しながら対応を進めた。訓練後には振り返りを行い、課題を抽出し、それらを今後はマニュアル改定WGに委譲し、検討を進めている。</p>
<p>情報収集 WG 企画運営担当：4名</p> <p>開催日：毎月1～2回開催。</p> <p>議題等：災害時情報収集システム（アシスト）の運用について、不具合の出現する状況を確認するためにアシストのサーバーや接続環境、応答時間等を変更し、その都度入力訓練を実施して、アシストを災害時のシステムとして使用できる見通しが立った。今後は、システムの継続使用のためのメンテナンスを検討する必要があり、複数業者に見積もりを依頼し、今後、災害対策委員会にて予算の獲得に向けて調整を進める予定。</p>
<p>外来防災部会 企画運営担当（アドバイザー）：2名</p> <p>開催日：毎月第4水曜日開催</p> <p>議題等：外来防災におけるアドバイザーの立場で、外来支部の運用や、外来全体の初動対応の検討、情報伝達方法、昇降専用階段の設定、災害時トイレの設置、避難誘導方法等について検討を進め、外来マニュアル改訂、アクションカード改訂に関わった。外来を対象とした事前勉強会・説明会を実施し、訓練後には振り返りを行い、現在、抽出された課題に対して、部会として検討を進めている。</p>
<p>本部 WG 企画運営担当：3名</p> <p>開催日：毎月1～2回開催</p> <p>議題等：総合防災訓練後に抽出された課題の検討を実施。本部構成員への緊急連絡網やMLの整備や、アクションカードの整備、本部レイアウトの検討や放送内容の検討、院内の被害状況報告ツールであるアシストの勉強会、事前の勉強会等の開催を事務部門と共同して実施。</p>
<p>CBRNEWG 企画運営担当：3名</p> <p>開催日：1/25にキックオフ。以後、毎月1回開催</p> <p>議題等：国連防災世界会議やG7 仙台財務大臣・中央銀行総裁会議の対応を参考に、2020年のオリンピックに向けた院内の体制整備を行う。2019年の総合防災訓練をCBRNEの爆傷対応とすることを決定しており、院内対応を進め、検証を行う。現在、ゾーニング・ゲートコントロール、除染、診療、専門分野に応じたマニュアル改定を進めている。</p>
<p>(2) 緊急被ばく医療専門委員会 企画運営担当：3名</p> <p>開催日：8/20、3/14 ※県内の訓練や会議の開催に合わせて</p> <p>議題等：原子力災害拠点病院の「原子力災害対策指針」及び「原子力災害拠点病院等の施設要件」に関する情報共有、宮城県原子力防災訓練概要、原子力災害医療派遣チームの研修の参加、平成30年度原子力規制庁委託「原子力災害時の医療に関わる研修講師養成講座」の受講等について検討を行った。また訓練後は、訓練時の課題、アンケート報告、今後の当院の診療エリアのレイアウトの検討、マニュアル・アクションカードの整備、担当者の決定を実施。</p>
<p>実務調整 WG 企画運営担当</p> <p>開催日：11/15、12/19、1/7、1/22、2/5 ※原子力災害医療対応訓練、委員会開催前</p> <p>議題等：WGメンバー決定、原子力災害医療対応訓練の情報共有、原子力災害派遣チームの人選、物品、養生準備、派遣チーム物品、放射線管理区域設定や養生担当者、訓練事前勉強会、防護服着脱訓練の実施や原子力災害拠点病院の施設要件に当たる研修会の開催等について検討。訓練後は振り返りの実施、原子力災害対応マニュアルやアクションカード修正に向けた検討を実施。</p>

(3) BCP 委員会 BCP 事務局員：2 名	
開催日： 毎月第 3 水曜日	議題等： 新規 BCP 作成部門の進捗共有、BCP 訓練の情報共有、第 2 版に向けた各部門への依頼・進捗確認、病院全体で優先的に対応すべき事前対策の各部門との MTG 内容の報告、BCP 講演会の案内、第 2 版リリース、緊急設備点検の実施と報告。
BCP 事務局会議 BCP 事務局員:2 名	
開催日： 毎月 1～2 回開催。	議題等： 新規 BCP 作成部門へのサポート、既存の BCP における「実施べき事前対策」内容の確認と課題抽出・明確化の MTG、BCP 訓練の企画運営、BCP 講演会の企画・運営、緊急設備点検訓練に向けた調整、病院として解決すべきハードウェア課題についての各部門への依頼と優先順位の検討等を BCP 事務局員として実施中。

3) DMAT 活動

(1) DMAT 定例会 企画運営担当：4 名	
開催日： 毎月第 2 金曜日	議題等： 厚生労働省より発出される通知の共有や DMAT 活動における変更点、新規隊員の受講状況、緊急連絡網のアップデート、訓練・研修会に関する活動報告、DMAT 隊員が参加した訓練や研修会の報告、DMAT 活動に関する医療資機材・車両・通信ツール等の整備について、情報共有を実施。また、DMAT の知識・技能維持を目的に、勉強会やミニ訓練等を実施。
(2) 災害関連業務調整会議 毎月第 2・第 4 木曜日 企画運営担当：4 名	
開催日： 毎月第 2・4 木曜日	※DMAT 隊員が院内外の災害関連業務を行うために業務として認めていただいた活動時間
議題等：	院内外の災害関連業務に対して、DMAT 隊員が業務として関わる時間を確保した。上記訓練・研修会準備に加え、通信ツールの説明会や訓練の実施、防災倉庫整備等も実施している。